

## 令和元年度第1回花巻市地域自治に関する懇談会会議録

【日 時】 令和元年12月10日（火）午後2時～午後5時

【場 所】 花巻市生涯学園都市会館3階 第2・3中ホール

【出席委員】 広田純一座長、役重眞喜子副座長、岩渕満智子委員、高橋久美子委員、伊藤昇委員、伊藤實委員、高橋一彦委員、佐々木政行委員、菊池利和委員、岩舘仁委員、板垣あや子委員、菊池和彦委員（12名）

【欠席委員】 葛巻徹委員、菊池正行委員、下林育男委員、川村智子委員（4名）

【市側出席者】 菊池司（地域づくり課長）、佐々木彰子（同課地域支援室地域支援監）、坊澤尚之（同）、黒沼寿夫（大迫総合支所地域振興課地域支援室地域支援監）、八重樫祐加（石鳥谷総合支所地域振興課地域支援室地域支援監）、及川恒雄（東和総合支所地域振興課地域支援室地域支援監）（6名）

【次 第】 1 開会

2 挨拶

3 委員紹介

4 座長挨拶

5 昨年度の振り返り

6 市からの説明

7 グループワーク

①地域の負担を軽くするために地域でできること

②地域の困りごとは「（仮称）お助け会議」で解決!!

③小さな創意（地域づくり）を実現するために

8 全体まとめ

9 閉会

### 1 開会（14：00）

### 2 挨拶

菊池地域づくり課長より挨拶

### 3 委員紹介

坊澤地域支援監より出席委員について紹介

### 4 座長挨拶（広田座長）

皆様、改めまして、本日はよろしく申し上げます。昨年度の最後が1月だったと思います。

1年近く空いてしまったんですが、これから詳しく昨年度の成果とその後の対応については

説明させていただきますが、この場はコミュニティ会議とか行政区、公民館等の地縁型のコミュニティの方と、市民活動系の方が一緒に意見交換するという場で、昨年度も色々面白い意見交換ができたんじゃないかなと思っています。懇談会設置のそもそもの目的というのが、地域自治を担う組織やその制度のあり方について、他の事例も学びながら現状・課題を共有して今後の地域自治のあり方について意見交換を行うということで、ある意味、1年で終わりではなくて、継続的なこういう意見交換が必要かなという風に思っています。昨年度の意見交換でも色々出ていたんですが、皆さんご承知のとおり、日本国全体が大きな構造変化の時代を迎えていまして、地域の様々な団体とか活動もある程度人口がいた時に作った団体であり活動であり、今の時代に合わなくなっているっていうのもここにいらっしゃる皆様方が一番よく分かっておられると思います。様々な地域で体育行事の維持が難しくなっていて、あれはある程度若い人がいて、若い人の娯楽の場でもあったんですけども、今は全くそういう時代でもないのに、同じような種目で、依然として続いているとかですね、防犯であるとか交通安全であるとか様々な活動がそうであろうと思います。その一方で、極めて重要な課題ではあるんですけども、なかなかそれに対応するような組織や活動が行われてないのもまた事実だと思ひまして、お年寄りの見守りの話とか生活交通とか、獣害とかですね、本当は、地域なり行政が協力して取り組まなくちゃいけない課題であるはずなのに、そういう体制になっていないんですよ。大学も同じような状況で、実は行政組織も似たようなところがあると思います。ですから、今後ますます人口が減って子どもの数が減っていく中で、やはり地域の方も本当に必要な課題に対応できるように、組織なり取組を変えていく必要があるんですけど、正にそういうところにいると思います。ただ、一旦作った組織とか、一旦始めた活動っていうのは、なかなか変えるのは難しくてですね、もうどうにもならなくなって変え始めるっていうのが大体人間社会でして、岩手より20年ぐらい早く過疎化が進んでいる島根とか高知とか愛媛とかですね、本当にどうにもならなくなって、かなり思い切った地域の組織の見直しをやっておられます。それだけ切実な課題認識があるからだと思うんです。岩手の場合は、ある意味それよりちょっとゆとりがあるので、今の段階で次の時代を見据えたように、色んな仕組を先取りして変えていく必要があるなということをつくづく感じています。この場は、やはりそういった背景のもとに、それぞれの地域であるとかそれぞれの活動で、普段皆さんが感じていらっしゃることを、率直に言い合う場であって欲しいと思います。もう形式とか縦割りとかで何とかなる時代ではないと思っております、やっぱり本音で語って本当に何とかしようという取組が必要だと思います。それは地域と行政の関係もそうかなと思ひまして、行政の方も実は非常に余裕がなくて、お金がなくてですね、職員も減らされて、新しい課題も色々見直されて結構大変な状況にあって、行政の組織をもうちょっと大胆に変えてもいいんじゃないかと個人的には思っているんです。岩手大学もそうなんですけど、組織を変えるって難しいなっていうのはつくづく感じております。ただそうも言っていられないわけで、是非、地域の方からそういった構造改革的な取組を進めていっ

て、行政と一緒に様々な地域課題の解決に、そういうことができるような地域になってくれればいいなと思っています。ということで、是非、率直な意見交換をしていただければよろしいかなと思っています。本日もよろしく申し上げます。

## 5 昨年度の振り返り（役重副座長）

皆様と去年もご一緒させていただきました、県立大学の方で講師をしております役重と申します。また、よろしく申し上げます。今、広田先生からお話がありましたとおりではございますが、時間が空いてしまいましたので、私もなんですが皆さんもだいぶ忘れていらっしゃるかなと思います。開催報告書がありますので、改めて簡単にですが、これを見ながら振り返りをしてみたいと思います。去年は10月から3回懇談会を開きました。2頁に第1回の10月9日の懇談会のことが書かれてありますが、この時は懇談会の設置の趣旨を皆さんで共有した他に、私の方からは全国的な地域自治に関わる課題ということで、花巻市だけではない、こういった役員の負担とか行政との連携とかですね、色んな部分で課題が出ているよというお話を紹介させていただきました。その上で、地域自治の仕組みの中には二つのソウイというのがあるんじゃないかという問題提起をさせていただきました。一つの、総合の総意という方の総意は、皆さんがコミュニティの中で今取り組んでくださっている、地域の総意ということをもとめながら事業を進めていくということの難しさ、難しさでもあり意義のある部分というところ。また、それからもう一つの創るほうの創意、これは、地域の全員がうんと言ってから進むのではなくて、やはり最初に気が付いてアイデアを出せる人、これを地域を含めて応援していけるような、こういった創意というものも必要ではないかというお話をさせていただきました。その上で皆さんに、二つのソウイの立場から、現状でどのような課題があるのかということグループワークで話し合っていたところ。その中ではこの頁の下にあるように、総合の総意の方では、役員のマンネリ化であったり、若い世代が参加しないことによって総意と言っても形だけになっているんじゃないかということ、それから、創る方の創意の立場からは、実は問題意識を持っている人やグループというのはいらんだ、いらんだけれども上手くコミュニティの方と繋がっていないんじゃないかというご提言がありました。3頁と4頁は第2回の結果になっていますけども、11月13日に第2回ということで話し合いをいたしました。この時は第1回に皆さんから出たご意見を踏まえて、創る方の創意をどうやったら地域づくりの中で生かしていけるんだろうかというようなことを考えていこうということで、私の方から愛知県の豊田市の事例ということで、右と左とで花巻市と豊田市の図を載せています。花巻市のコミュニティ会議によく似た地域会議という組織で豊田市もやっているんだけど、そこに全てを、地域づくりを任せてしまうということではなくて、創る創意型の活動も個別の団体について、行政の方からも独自に支援をしている、こういう二本立ての仕組みをとっている自治体もあるよということをご紹介いたしました。そのパターンに比べますと、当市のコミュニティ会議の場合は、二つのソウイを全て担っているような、こういう

負担が現場には生じているんじゃないかという話に繋がっていきました。皆さんの方からは、どうしたら抱えすぎというところから解放できるんだろうかというようなことを中心に話し合っていたら、その中では、行政の役割というのが実は大きいんじゃないかということが出てきました。行政がやるべきことというのは、あくまでコミュニティを主役にしながらも、個別の課題について地域の中だけではどうしても手余りするなというところが、福祉であったり、防災であったり、様々な課題がありますので、それに応じてもう少しコミュニティを開くというんでしょうか、NPOとか民間団体とか、あるいは事業者さんとかも含めて、テーマに即してもっとずぶずぶ深く支援できるような、こういったグループワーク的なことが必要ではないかということが意見として出てきました。次の頁になりますが、第3回の懇談会は年が明けて1月15日。第1回、第2回までに話し合ったことを最終的に提言というような形で報告書にまとめようかというお話になり、まとめの議論をしていただきました。その中では、6頁にありますように、まず、目指す地域自治の姿はこういうことではないかということで、これが冒頭に菊池課長がお話くださった地域自治の姿。1と2と3となっていますが、1の地域にしかできない本来の役割を地域にさせていただくためにはどうしたらいいか、下の方の見直しの方向についてという中の1番目、コミュニティの役や組織や運営というのをもう少し身軽にしていく、その上で地域にしかできないことは何だろうかということをもっと具体的に形にしていく必要があるんじゃないかと。それから、2番目の若い世代女性など多様な力をつなげてっていう部分は、具体的にはその下の方になりますが、2番の創意の活動、小さな創意というのを育てていく、そういった現場の工夫も必要ではないかということで、皆さんの方からは、例えばこういうノウハウとか、こういう活動、こういう人材を提供ができるよっていうものが、もう少し地域のニーズとマッチングできるような仕組みもあっていいんじゃないかというご意見もいただきました。それから最後の持続的に守っていくという点では、どうしても、やはり行政の力も、しっかりした連携が必要であるということから、この後、事務局からも説明があると思いますが、テーマ横断型で力を繋ぐことができるような、そういう新しい仕組みも考えていく必要があるだろうと、こういう大きな3本の柱で報告をまとめていただいたということになります。その時に皆さんにそれぞれ出していただいたご意見が7頁以降、表の中に個別の項目、3本の柱に沿って整理してありますので、ちょっと眺めていただきながら、議論を思い出していただきたいと思います。その後、事務局の方で4月15日号の広報紙に懇談会の報告の内容をこういった形で掲載して下さって、市民の方にですね、最後までというわけにはいきませんが、こういう議論が今進んでいますよということについてはお知らせをしていただいたというところでもあります。ということで、昨年度についてやや記憶が甦ってくださったでしょうか。私の方からは以上で振り返りとさせていただきます。

## 6 市からの説明（佐々木地域支援監）

資料により、現在の市の取組、今後の方向性について説明。

## 7 グループワーク

### テーマ1「地域の負担を軽くするために地域でできること」

#### グループA 意見交換

<岩館仁委員>自分はコミュニティの会長になって今3年目で、マンネリということを感じる前に、一生懸命覚えているっていうか、前に進むことを考えている。だから、今までこのところが悪いっていうのは、そんなには感じていないんですよ。例えば、地域の行事が多くて大変とありますけれども、部会ごとに色んな割り当てをしてやっているんで、そんなに地域の行事が多いという風に私は感じてないんですよ。だから、皆さんはそれなりにこなしているというか楽しんでやっている感じがあるから、本当に大変であればコミュニティの中でこれはもう止めた方がいいんじゃないかって話は必ず出てくるはずだから、そんなに考えていくことなのかなというのが実感ですね。

<伊藤實委員>確かに、地域の負担っていうのは年々大きくなっていると思います。というのは、花南では老人クラブが解散してきているんですよ。どんどん手がいなくなるので、高齢者はどうなっていくのかなと、そう言われてから4年位たつんですけども、後継ぎはかなり厳しくなってきましたね、老人クラブという組織が無くなるんじゃないか、そうした場合どうなるかということを開きかけながら今やっているんですけども。逆に今度は、小学校の児童がだんだん増えてきているので、特に花南は県道と市道の間に挟まれた学校ですので、登下校中の交通事故というものに大変神経をとがらせているんですけども、なかなかちょっと。コミュニティの方もかなり若返ったんですけども、皆仕事に就いているものですから、特にある町内会では若手に全部切りかえたんですけども、全く昼間はいない、何かあっても困る。特に10月12日の大雨災害時には、うちの方では12人ほど避難者が集まったんですけど、市全体では380人も避難してきたそうですね。それを聞くと、毎日の生活に不安を感じているのは、やっぱり災害かなと思わしてね、そこに去年から切り替えまして、そういったのを地域住民に知らせることによって、もう一つ固まりを作っていこうかなと。それと、子育て中のお母さんたちは本当に大変だと、小学校が一体どうなるのかと、ちょっと色んな問題を抱えて困っているんですけども、そういったのをコミュニティでっていうのは、なかなかちょっと無いんですけども。確か、各種団体の事務までを全部コミュニティが引き受けているところもあるようですけども、うちの方では全部止めて、各諸団体で、交通安全は交通安全協会だと、支部は支部だと切り替えています。それでも、今2人の専従職員と、あと1人はパートで雇っているんですけど、まず休む暇がない状態です。それで、市の方をお願いして、ちょっと待遇を改善してみようじゃないかということで、まちづくりの方の予算は余り削らないで、指定管理事業費のうち一部を人件費に充てて、職員に回して、賞与的なものをと今年から考えたんです。今まで振興センターに市の職員が派遣されていたのが、全部引き上げちゃって地域に任されたんですけども、ちょっと大変だなということです。パートの職員を人だけ集めて、

数だけ集めて、できるかと言ったらできっこない。かなり役所の仕事ですから、事務処理も行政の仕事と同じですからちょっと大変だなといったところで頭を痛くしているところ  
です。

<菊池利和委員>コミュニティの事といえば、今まで続けてきた事業は何となく続けましょ  
うという風なことで、見直しと言いながら決断ができない。例えば、正月の飾り作りを  
毎年やっているんですが、この前は参加者が5、6人になってしまったということもあつた  
りして。やっぱり、英断を下して、もっと大切な部分に力を注いで、今までの流れでやっ  
てきた事をもう1回見直していく必要があるのではないかと、という事業の点検。それから、  
役員の公募という方法を掲げましたが、2年たっても結果にはつながらない。でも、その姿  
勢は大切だろうと思うんで、門戸を開いてですね、やっぱり続けていきたいと思っていま  
す。

<高橋久美子委員>私は、コミュニティ自体でどういう活動をされているのか全容を把握  
していないので、忙しくて大変なんだなということ。私は小学生の子どもがまだいるも  
のですから、子どもの行事や高齢者が一緒に合同の行事なんかには声がかかるので、そう  
いう部分と、あとは防災、それから運動会とか目に見えるのはその程度位しか把握してい  
なかつたなと思っているんですが、目的に沿って、その行事が目的を達成できるような行  
事になっているのかというところから見直すこともあるのかなと思ったりしたんですが、  
いかがですか。

<岩館仁委員>うちのコミュニティでも子育て支援というのは大事だろうということで、  
保育園に行っていない子どもさんを遊ばせる児童館みたいな役割ということで子育て支援  
を開設したんですよ、去年まで。ところが、実際集まってくるお子さんがほとんどいなく  
て、もうこれは止めようということで切り替えて、31年度とか令和元年はもうそういう事  
業は無くしたりね。あと、色んな部会ごとに、例えば男の料理教室とか、色んなことをや  
るんですけども、今までやってきても参加者が少なくなってくれば、それは別のことを考  
えましょうということで、臨機応変に廃止なり別の事業をやるなり、変えて試して、毎年  
毎年やっているんで、そんなに行事が増えてきているとかは感じないですね。

<高橋久美子委員>私のやっている仕事の中で、クラフトというか、手仕事の教室を開催  
している方々がいるんですけども、参加者が増えているんですよ。その年齢層がどれ位  
かっていうと若い方から高齢の方まで様々で、開催されるその手仕事の内容は、例えばフ  
ラワーアレンジメントみたいな感じ、クリスマスリースみたいなものだと若いお母さんが  
いっぱい参加されて、あとは、吊るし雛のように縫物のようなものであれば高齢の方々が  
参加されまして、そこは参加される方が増えているんです。なので、地域ではなくても違  
うコミュニティに関わっている方は多いのかなというように感じる場所ですね。

<岩館仁委員>高橋さん、さっき、地域の括りよりももっと大きな範囲でのイベント提案  
とかっていう話もあつたんですけど、もっと大きな括りっていうのはどの位の括りですか。

<高橋久美子委員>例えば、この辺だと上町地区とか吹張とか、そういう対象とする地区をターゲットにしたものっていうよりは、市内というか、市外でも。近いところかというと、先週、中央公園でキャンドルイベントを開催したんです。そういうことをやっているんです。

<岩館仁委員>コミュニティの方では、助成金をもらってやっている関係で、自分のところでの事業にどうしてもなってしまうんで、もっと広い範囲となると、他のコミュニティと連携したりとかね、そういうことになるんですよね。連携しているものはあるんですよ、石鳥谷地区の全コミュニティが、東京町人会にこちらの民俗芸能とかを行って見せたり、そういうのは連携してやっているんですけど。

<伊藤實委員>花南地区には五つの専門部会があるんですけども、やっぱりこれに落としきいていっているんですよ。だけど、その部会長から、仕事を持っていて集まるのがなかなか大変だという話になり、これをどうするかってなると夜に集まることになる。夜に月 1 回集まって専門部会の見直しなどをやっているんですけども、専門部会の仕事でこれは要らないんじゃないかというのはなかなか無くてですね、もう少しこれをしていただけたらと。今までは宮沢賢治の詩碑があったものですから、それを中心にした行事だったんですけども、今度は富士大と連携をしながら、今週また留学生と中学生との交流会をするのですが、そういったことで負担的なものは減っていくかなと思うんですけど、なかなか現実には難しいのです。ですが、何のための専門部会かといったら、やっぱり名前だけじゃなくてやることをやってくれという風なことで、今、そこを強く言ってきて、何とか立ち上がってきてるわけですけども、大変ですね。

<岩淵満智子委員>コミュニティからちょっと外れるかもしれないんですけども、地域の負担を軽くとか、何か集まりをすれば「行事が多くて大変なんだよね」、とすぐ出るんですけども、その行事というものを一般の人たちは分かっていないと思うんですよ。役員をやっている人たちは忙しい、忙しいとおっしゃいますけど、一般住民の人たちっていうのは、何が忙しいんだか分かっていないことが多いんですよ。私は社協の関係で各地区を歩いているんですけども、福祉懇談会を各行政区ごとにやってもらっているんです。私の前の支部長は、全部コミュニティ単位でやっていたんです。そうしたら、区長とか民生委員とか、いつも同じような方たちばかりの集まり。本来であれば、聞いた人たちが地域に戻って行って皆さんにもお知らせするというのがねらいだと思うんですけど、それが全然そうになっていない。ただ、聞きましたよの報告だけ。私が、これじゃ何の為にやったのかなと思うような発言ばかりしているものですから、支部長を押しつけられたと思うんですけども、私になってからは、全部の各行政区に、人数を集めるのが目的ではない、とにかく皆で丸くなって顔と顔が見えるような話し合いの場にしましょうということで、今ずっとやっています。そうすると、正直言って本当に大変です。昼も行ったり、夜も来てくださいと言われてたりしますけども、受けた以上はやらなきゃいけない。また、来た人たちが来て良かったと思って帰れるだけで成功だと思っているんです。そして、年々多く開

催してくださっているのが良かったなと思って、これを引き継いでもらって。よく、市役所の職員ですかと言われることがあるんですけど、職員ではない、皆さんと同じよって言いながらやっているんだけど、やはり、何でも本音で話をしたり、そういう話しやすい場づくりをするのが私の役割だと思っています。

<伊藤實委員>花南の場合は人口が八千人を超えていて、そこにたった一つのコミュニティ会議というのはおかしいんじゃないか、それで、コミュニティ会議の本部役員の任期と自治会や区長の任期がずれているからこれを一緒にして、コミュニティの運営は自治会、公民館長、行政区長の三つの団体でやろうかなと。ただ、民生児童委員は個人情報だからそこには入りませんというものの、主任児童委員も入って毎月色々会議をやっています。<岩淵真智子委員>行政区によっては、任期を全然決めていないところもありますよね。そういうのは、思っても声を出せないところでしょうか。

<伊藤實委員>10ある行政区の中に自治公民館と自治会があり、自治会の中に自主防災会っていうのもあり、これはちょっとしんどいんじゃないかと思うところがあり、去年からそことも連携を取りながら、地域住民は何を思っているかというのを聞いたところ、高齢になったら不安になってくるとか、災害が起きたらどうしようということだったんですよ。自治会と公民館と行政区長にコミュニティの役割を下してきて二年目になるが、もう少ししたらもっと機能して、負担が減るんじゃないかと思っている。

<岩淵満智子委員>今年度は福祉懇談会に力を入れていて、今までのように話だけ聞くんじゃなくて、初めてゲーム方式でやったんです。ゲームカードをいっぱい並べて、この先何が不安なのかというカードを取ってくださってという形です。そうすると、参加者同士で何が困っているのかが分かって、協力し合うきっかけになっているんです。

## テーマ1「地域の負担を軽くするために地域でできること」

### グループB 意見交換

<菊池和彦委員>さっき広田先生が人口が減ったり高齢化が進んでいたりする、そう環境が変わってきているのに一旦作った事業はなかなか変えにくいってことをおっしゃってました。私はコミュニティ会議の事務局をしています、ある事業を立ち上げると、企画から始まって、何年か、何回か続けます。実際周りの人から、事業が多過ぎるから減らしたらとか、一緒にしたらとか意見を聞く時があるんですけど、せっかくやってきたのについていう気持ちがあると、なかなか廃止するとか統合するとかっていうのは抵抗感じた時はありました。けれども、うちの成島の場合は、参加している人数が思いっきり減ったら、そういうことも考えてもいいかなってなり、まだ実際やっていないんですけど、もしやるとすれば、性質の違った二つを一緒にして一つにするとか、2日間やっているのを1日でやるっていうのはちょっとやりづらい。だから、廃止のほかに隔年でやるとか、そうすれば事業を見直す負担が少なくて済むのかなと思ったり、あるいは、今ある事業にどこかの組織が乗っかったり。具体的に言うと、昨日ある地区の老人クラブの会長さんが



来て、去年は老人クラブの中で講師を呼んで事業をしたんですけれども、必ずしも上手くいかなかったってことをしゃべっていました。そこで、うちで毎月やっているいきいきサロンの事業活動内容を紹介したら、今年は老人クラブも一緒に参加して、老人クラブの活動をしたいと、そういう参加の仕方もあるんだなと感じました。軽減するために今ある活動に別の組織が乗かって活動するのも面白いかなと思いました。

<佐々木政之委員>それは賛成です。同じような行事、事業はかぶせてもいいと思います。

<菊池和彦委員>かぶせようと思っても愛着があってできないものは、隔年で実施するのも一つの方法だと思います。

<佐々木政之委員>どこかで勇気出してカットしてないと。

<菊池和彦委員>そのとおり、増やすことは簡単ですけども、減らすにはなかなか勇気が必要ですよ。

<板垣あや子委員>実際、掃除とかごみ拾いとか、回覧板を見忘れてうっかり出なかった時には近所で悪い噂が流れて大変な騒ぎになる。強制的にいつ何時と決められたものに対して、出られない日もあれば、うっかりしている時もある。地域性の負担っていうかを感じています。だから、各家で自分の家の周りを隣との間ぐらいまで何時までにやりましょうとか、ごみ袋は1枚差し上げますよとか、その程度でいいのかなって。また、去年から地域のそういうことに参加した時にポイント制か何かかと思っていたんですが、それを実際岩手町でやっています。例えば、地域清掃に出たら商店街のポイントカードに50ポイントが入る仕組みになっています。子供たちだと図書館に行って図書利用したら10ポイントとか、地域の行事に参加したとか、健診受けたとか。何か参加しやすい仕組みもあったらいいのかなって。近所の噂じゃなくて、プラスの気持ちで参加できるようなものが欲しい。

<伊藤昇委員>今年から行事を減らしているが、反対する人はいない。今は元気な方が協力して何とかやっているが、私たち世代が元気なうちに地域の行事やコミュニティーの形を考えていかなければならない。小中学生がいるうちは若い世代も協力してくれるが、それ以外はなかなか参加してもらえず苦慮している。役員だけの行事になったりするので、去年あたりから行事の3分の1位は削っている。総会には比較的参加が多いが、行事には少ない。今1番参加者が多いのは、毎月やっているサロンのような集いの広場。民生委員も高齢者の見守り等が大変ですが、集いの場や公園の草刈りなどの一斉清掃の時に地域の情報をもらえる。一斉清掃についてですが、出ない人から罰金を取っては？という声もあるが、そうすると、罰金を払って逆に出てくれる人が少なくなると思うので、それはしていない。我々世代は一生懸命地域に貢献してきたが、今の若い世代は忙しいためか、そうではない。

<高橋一彦委員>平成30年度からコミュニティ会議の会長を務めており、2年かけて事業の見直しを進めてきたが、結局、同じ事業を繰り返した上に更に新しいものが見ついた。ただ、事業の見直しは必要だと思うので、難しいことだとは思いますが、今後も取り組んでいき

たい。実は、宮野目の運動会はJ A宮野目支店が中心を担ってきた。ところが、統合により宮野目支店が無くなる予定となり、宮野目地区体育協会も存続できなくなっただらう。運動会後の各地区での会食が最大のコミュニケーションの場であり、運動会はなくしたくないので、コミュニティ会議の事業に取り込むことも考えていかないといけない。事業を減らすというテーマに逆行することも起きている。

<伊藤昇委員>矢沢の体育協会は2年に1回矢沢全体の運動会をやっていて、それがいない年は各地区で運動会をやっている。確かに、先頭をきる人がいなくなるのは大変。

<板垣あや子委員>今の子どもたちは交流を求めているないので、交流することが難しい。価値観も違い、世代間のギャップを感じる。また、地域に出るとどんどん役員が回ってきて大変になる。例えば、市の職員が交通安全母の会などの会長職をやってくれれば、地域の人に大役が回ってこないという安心感から行事に参加する人が増えるのではないか。また、年休を使って地域活動をするのではなく、市職員が地域で活躍できるような制度があればよいと思う。

<伊藤昇委員>リーダーが輪番制というのも運営が難しくなる。昔みたいに、公民館で市の職員が事務をとってくれれば良かったが、今はリーダーになるのにもハードルがあり大変。振興センターに職員がいてくれれば良いのだが。

## テーマ1「地域の負担を軽くするために地域でできること」

### 広田座長コメント

B班ではもう事業の見直しをしてきているというお話があって、逆にA班では事業を増やすことはできるが減らすのは大変だという話が出てきて、これは一体どういうことなのかと考えてみました。恐らく、地域力が比較的高くて役員さんたちがそういう判断ができるようなところだと、結構随時行事の見直しをしていて削ってきている。ところが、地域力がそこまで高くないようなところ、役員さんが持ち回りみたいなのは、自分の代でこれを削ってしまってもいいのかというようなことがどうしても出てきてしまうので、多くの方がその行事を見直した方がいい、数を減らした方がいい、場合によっては止めてもいいと思っても、なかなかそれができない地域が結構あるだろうと思います。ですから、第1テーマはどういうプロセスで地域の負担を軽くしていったらいいのかっていう話ですけども、もう既にそういうプロセスを持っている地域もあるってことですよね。役員さんたちの判断で随時それができているところもあれば、多くのところではなかなかそれができなくて、できない地域をどうやってできるようにするかっていうところも一つポイントかなとちょっと感じました。あと、A班の方で面白かったのは、子どもたちの価値観が違うという話で、子どもたちは交流を求めているんじゃないかという話。若い世代のお父さんお母さんも含めて、今の上の世代とは生活時間も働き方も違うし、世代間の育ってきた環境があまりにも違うので、課題を共有したりといった、そういうコミュニケーションがなかなか難しいだろうなっていうのをちょっと感じました。私も学生とのコミュニ

ケーションがだんだん難しくなっていて、自分が年をとるごとに感じてきているのもそうなのかなあとと思っています。次のテーマは、そういう人たちの間でどうコミュニケーションをとっていかかというものです。

### テーマ1「地域の負担を軽くするために地域でできること」

#### 役重副座長コメント

第1ラウンド、私はA班しか聞いていなかったですけど、二つほどちょっと気になったことがありました。一つは、コミュニティ会議の全部の代表者がいらっしやっているわけではないので、特に周辺地域の実態というものが表に出てきづらい。外川目や成島の会長さんはいらっしやいますけれど、それほど負担じゃないよ、部会もきちんと機能しているよというところはある程度人数の多い地域で、そうでないところに行くと本当に人がいないということがあるので、この懇談会全体としてはその辺も今後視野に入れて議論していく必要があるのかなと感じたのが一つです。それから、岩渕さんから福祉懇談会のお話をどういう風に地域に広げていっているかっていうご紹介があったんですけど、それではとしたところは、例えば3人しか来なかった、だからもう切っていいんだということではなくて、地域にとって本当に必要なことなのかどうか、まさにこの目指す姿の中にあるとおり、地域にしかできない本来の役割に当たるのかどうかということと事業の見直しを考えていかないと、単に減ったからいいということではなくて、やっぱり量でなく質の部分をいかに高めるかっていうこともあるんじゃないかと。それを言い出すと何も切れないんじゃないかというお話もあるとは思いますが、それを考慮していかないといけない。特に、お話の中で指定管理者として施設の管理をしている皆さんが非常に不安になっているという現状はあるわけで、地域にしかできない本来の役割なのかどうかということは改めて考える必要が実はあります。秋田県では、一旦受けた指定管理を地域がもうやりきれないということで行政に戻す、もう半分以上がそういう流れ。岩手だから真面目に頑張っていますけど、そこら辺もいつか限界にくることもあり、公共施設のあり方も検討しているわけですので、そういったことも含めて、今やっていることは当たり前という流れではなく、いろんな柔軟な発想で考えていただくことが必要かと思いました。そういう意味で次の第2ラウンドに、行政との連携も含めて地域からもう少し腕を広げて、串刺しにしていろんな力を繋げるということを考えていただきますので、区切った話ではなく連続した話として頭を働かせていただくといいのかなと思います。

### テーマ2「地域の困りごとは「(仮称)お助け会議」で解決!!」

#### 役重副座長コメント(意見交換前)

このテーマ横断型ミーティングっていうのは、島根県の雲南市の例を昨年紹介したものです。実はこの前、沖縄式円卓会議の研修会に行ってきました。例えばですが、そこでは認知症のあるお年寄りの徘徊問題が非常に深刻になっていて、沖縄は自治会の組織率が2割

以下なので自治会の力に頼ることもできず、ではどうするかということで円卓会議が開かれ、その時に地域に事業展開しているスーパーの社長さんも入っていて、自分の店舗に自販機が必ずある、自販機はどこにでもあるよねという話になって、自販機は電気がいつでも通っているよ、そこに受信機を押し込めるような工夫をしたら、お年寄りがその発信機をセットした場合はどこに徘徊しても大丈夫みたいなことになり、それが今、自販機のメーカーと地元の店舗と地域の方々が連携してその仕組みを構築しつつあるということでした。要するに、そういうアイデアが出てくるためには、やっぱりステークホルダーですね、関係する立場の方とか、事業者とか組織とか、そういった方を本当に幅広く声掛けしてみんなで考えようよっていう場をいかに作れるかっていうことですね。そういうことを、今ちょっと課題例を設定しながら、知恵を絞ってみましょうかというのがテーマ2です。

## テーマ2「地域の困りごとは「(仮称)お助け会議」で解決!!」

### グループA 意見交換

<伊藤実委員>花南では、自治会長連絡協議会、自治公民館連絡協議会、区長会連絡協議会をそれぞれつくっていますが、今後色んな問題が出てくるだろうということで、民生児童委員の方に呼びかけて、行政区長が中心となって民生委員と一緒に個別避難行動計画や自主防災会の役割を住民に聞かせて歩いたところ、住民からは意外とよい反応が返ってきました。他の地域では、個別避難行動計画を作ったって仕方がないという声もあるようですが、災害を受けたらとんでもないことになるということで、防災というものに焦点を絞ったまちづくりも必要じゃないのかな、防災をまちづくりの一つとして植え付けていこうかなと思っております。10月12日に花南振興センターに12人避難してきたんですけれども、住民が安心して暮らせるような、少しでも不安を解消できるような、高齢者だけでなく、子育て中のお母さん方も不安を抱えているんだろうなということのを思いまして、これからアンケート調査をどういう形でやっっていこうかなと考えているところです。やっぱり住民の声を主体にしたまちづくりっていうものが一番大事かなと思ってます。

<岩館仁委員>やっぱり、コミュニティ中でひとり暮らし老人とか、老人だけの家庭とかが増えてるんです。それで、何か困っていることあるのかなっていうニーズ調査とか必要なんでしょうけれども、ニーズ調査までやったことはないですね。実際困っているっていう声も上がってこない。もし上がってきたとしても、暮らしている周りの人も老人が多くて、老々家庭が本当に増えていて、ニーズ把握してもそれに対応できないのかなあということで、皆さんの地区では一体どういう状況なのかなと気になってはいるんですけどね。

<高橋久美子委員>保健センターから依頼があって、保健師として1カ月位高齢者のお宅を50件ほど訪問して相談を受ける事業を先日やったんですけど、やっぱり皆さん地域の方には言いにくいらしいです。保健師ですって言うと、一杯相談ごとが出てきました。やっぱり、病気になって自由に動けないでお家の中にいらっしゃる時に、地域コミュニティっ

てどういう風に生かされるのかなって1か月位すごく考える機会をいただきました。運動したいんだけど、運動しに行くこともできないし、運動する場所もない、公民館で何かあるみたいなんだけど、というようなことに対応していたんです。だから、色んなニーズはあるんじゃないかなと思いました。あとは、自分の家の事を地域に相談しにくい。どうしてもお金のことだったり、家庭内の事情だったりっていうと、隣近所に相談して噂が広がるとなると、言えないらしいです。そういう時に誰が聞いて回るかっていうことは、すごく大事なことだと思います。

<岩淵満智子委員>私は社協の立場で地域に入っているんですけど、地域の福祉課題が何なのか一般の方々は全く分からないので、地域福祉懇談会に来てくださいと勧めています。例えば、ゴミ出しに困っている時には総合事業に繋げていくんですが、市の広報で総合事業について大きく取り上げてくださっていても、皆さんは知らないんです。また、例えば、職員が元気でまっせ体操を紹介する時には、何の為にそれを行政が勧めているのかという根本の説明が足りていないと思います。ただ体操をしましょうではなく、介護予防をして介護保険料をこれ以上上げないように体操をしましょうということをきちんと教えていかないと。そういう部分を大切にしながら、社協の立場で福祉懇談会に入っています。

<伊藤實委員>今、民生児童委員のなり手がいなくて困っていますよね。やる事が多くて。

<岩淵満智子委員>社協の支部長として敬老会に出席すると、民生委員の活動を減らしてくださいとお願いされます。それは行政に伝えておきますと言うんですが、一方で、なぜ民生委員のなり手がいないのか地域の皆で考えなければいけないと思うんです。負担が大きいからだと思うんですよ。私は、地域に民生委員の活動をサポートしてくださる人がいれば、それほど負担ではないと思っています。福祉イコール民生委員だみたいに地域がなると誰もやりたくないわけで、大丈夫、何かあったら教えるから家に来ればいい、そういう一言で民生委員の気持ちがすごく軽くなると思います。私はそうやって民生委員を30年も務めさせていただきました。

<岩館仁委員>民生委員さんの集まりの時には、例えば運動をやりたいんだというような意見とかをまとめたりしているんですか。もし、民生委員さんの会議の中で、こういう要望が出ましたというのがあれば、例えば、コミュニティでも一緒にこれを考えてくれませんかということを、色んなグループに広げればよいのではないのでしょうか。

<岩淵満智子委員>ひとり暮らしの女性から相談を受けた時に地域の民生委員さんを紹介したところ、民生委員さんに相談していいんですかという反応でした。実は民生委員について知られていないという部分もあります。また、民生委員は関係機関に繋ぐだけでいいんです。あんまり負担かけるとね。先ほど言った地域福祉懇談会には必ず民生委員さんに入ってもらっています。そして、民生委員さんには、地域の中で民生委員を必要とする人はどれ位いるのかを皆さんに話してもらいます。その上で、だから地域でも民生委員さん

を助けてあげてくださいと皆さんにお願いしています。そういう意味でも、福祉懇談会に力を入れています。

<菊池利和委員>実は私も民生委員です。民生委員として活動するうえでの組織力が余りないものですから、なかなか活動が難しい。民生委員の力量にも限界がありますので、基本的には専門家に繋ぐだけということで、支援が必要な人の見守りやサポートをするという形で活動をしています。

<伊藤實委員>避難行動要支援者登録制度では、自主防災会や民生委員に名簿を公開してもよいという合意が必要なわけですが、この間の市政懇談会の中で、個人情報だからといって名簿を出さないとなると助けようがないので、これからは本人が拒否しない限り民生委員や行政区長、自主防災会へ情報を公開しますから、何とか地域で手を差し伸べて欲しいと言われました。が、これからどうやっていったらいいものかなあと思っています。

<菊池利和委員>自主防災会では、要支援者名簿を鍵つきの場所に保管していて、民生委員や消防とは情報を共有するものの、建前上は広く周知しないことになっていますよね。個人情報というのは、やっぱりネックになっています。

<伊藤實委員>今、私の地域で一番困っているのは空き家対策です。八幡平市で行政代執行をしたということを知り、花巻市に危険な建物の処分について聞きに行ったところ、解体費用は所有者が負担すべきもので、1件100万円近くもかかるという話をされ、これは困ったと頭を抱えています。

<岩館仁委員>民生委員さんは個々の困りごとへの活動で終わってしまうんですが、もっと広範に一般的な困りごとと捉えて、別の組織とも一緒になってもっと多くの人を救うようなことができればいいんじゃないでしょうかね。

<菊池利和委員>そこはなかなか難しいですね。認知症で徘徊気味の方を地域で支援するために、社協や包括支援センター、地域福祉課、民生委員、地域住民など関係者が集まって地域ケア会議を立ち上げることはしばしばあります。

<岩館仁委員>じゃあ、既にシステムはできているんですね。

<菊池利和委員>ただ、全員がケア会議の対象者になるわけではないです。

<伊藤實委員>私の地域では、自主防災会と町内会という名前で地域を歩いて、独居世帯や高齢者世帯、障がいのある方などの情報、空き家の情報を入手して色分けした資料を作っています。大変大事なことだろうと思っているので、定期的な点検もしながら取り組んでいます。ただ、広く公開はしていません。

<菊池利和委員>ハザードマップという流れの中で、高齢者で支援が必要な人の地域のマップとか、空き家のマップ、そういうことになるんじゃないかな。

<岩館仁委員>でも、そういうものを作っているということを知っているのは、民生委員さんとか本当に一部の人なんですよ。そういう情報を知らないでいると、逆に災害が起きた時に支援員でもないのに駆けつけて、むしろ困難になるかもしれないですね。

<伊藤實委員>次に消防の話で、消火活動困難区域が70カ所あるということで、地域で色々な話が出たんです。消防署の方で消火活動困難区域を勝手に指定し、あまり公表しないでくださいというものの、指定された地域はどうしたらいいかと大変困っています。

<八重樫支援監>皆さんの話を聞いていると、地域の課題を把握する手立て自体が確立されていないということでしょうか。地域に暮らす皆さんの声を拾うことも難しいということでしょうか。

<伊藤實委員>やっぱり、定期的に皆さんの声を聞かなければならないですね。

<岩淵満智子委員>民生委員というのは、自分の役割として地域の声を把握しておかなきゃならないんです。皆さんが声を上げるのではなくて。

## テーマ2「地域の困りごとは「(仮称)お助け会議」で解決!!」

### グループB 意見交換

<板垣あや子委員>地域で例えば他のおばあちゃんとかに発言すると、あそこの嫁は生意気だとか言われるから、結局、困りごとの解決にならない。建設的な意見を出そうと思ってもそれができない地域もある。地域の困りごとでも地域を抜け出していいシステムがあると非常にいいなと思います。一番は地域に入りにくいところが課題だと思う。

<高橋一彦委員>今、民生委員の仕事が非常に多くて大変で、このままではなり手がいなくなる。高齢者の見守りも民生委員だけでなく小さい地域単位でできないものかと思っている。地域ぐるみで手助けできる雰囲気づくりができないものかと悩んでいる。

<板垣あや子委員>地元知られたくないことは近くの民生委員さんには相談しない。

<伊藤昇委員>自分も民生委員をやったことがある。何年も前から次の民生委員候補に声をかけておき、一所懸命やっている姿を見てもらうことで次の人にも自分の番だという意識をもってもらい、今は何とかスムーズに人選ができています。また、民生委員をできなくなった時はいつでも相談していいよと声掛けし、安心して活動してもらっている。民生委員の仕事は国が決めてくるが、年々増えてきているので、なり手を探すのが段々難しくなってきた。

<高橋一彦委員>高齢化が進んでくれば孤独死が増えてくるので、国から出される民生委員のガイドラインも理解できる。だからそういった仕事は是としながらも、それをスムーズに進めていくために、民生委員さんだけでなく周りでも何かできないのか、あるいは地域に何ができのかっていうところまで掘り下げてもらわないと、だからなり手がなくなるのよってという話に戻る。これからは地域で民生委員をバックアップする仕組みを作っていくないと大変になる。

<板垣あや子委員>高齢者と民生委員は結びつきやすいが、本当は民生児童委員なのに子どもたちとは結びつかない。

<佐々木政之委員>中には民生委員に手上げしてくる人もいます。

＜菊池和彦委員＞月 1 回地域の振興センターでいきいきサロンをやっています。その中で課題になったのは、自分の足で来られない人を民生委員さんとか、保健推進員さんとかヘルパーさんとか隣近所の人で送迎するのですが、ケア会議で事故やけがをした時の責任は誰がとるのかという話になり、広報などでお知らせしてジャンボタクシーを走らせましたが、利用者はゼロ。色々な案が出て、必ずしも実効性のあるものではないことがある。ジャンボタクシーより善意に乗っかってやった方が 1 番長続きすると確信したところですね。

＜伊藤昇委員＞時代が変わった。昔は弁当とけがは自分持ち。今はボランティアにお金が出るが、本当のボランティアではない。時代がそうさせている。

＜菊池和彦委員＞解決するために色んな人を集めて話し合おうんですけども、1 番足りないのは当事者意識。当事者意識を持った人たちが集まって話し合えばいい解決策が出るんじゃないかなって期待をしているところなんですけれども、特に女性とか若者たちを集めたいと思っても今の生活で精一杯でなかなかそういうところに来てくれない。

＜伊藤昇委員＞それは、何処でも同じ。

＜板垣あや子委員＞どうやったら人が集まるのかを話し合った時に、子どもたちだったら FreeWi-Fi をつけることだよという話になった。例えば公民館に FreeWi-Fi をつけて、子どもたちが集まる場所に例えば高齢者でも地域の人でも、まずは人が集まるっていう事が第 1 歩という話をしたことがある。

＜菊池和彦委員＞いきいきサロンの話の続きなんですけれども、振興センターにはいつも 40 人以上集まっているんです。でも足のない人もいるから地域の公民館でやってみようという人たちもいて、実際公民館で 3 年ぐらいあります。そういうことを考えてくれる人たちはいます。

＜役重副座長＞先日、岩泉の山の中の集落に調査に行きました。週 1 回公民館でいきいきサロンをやっていて、みんな楽しいから、毎週乗り合いでやってくる。やはり、足の問題がある。

## テーマ 2 「地域の困りごとは「(仮称) お助け会議」で解決 !!」

### 役重副座長コメント

このラウンドのテーマがテーマ横断型ミーティング、いわゆる円卓会議だったんですけど、今、A 班・B 班の話を聞いていて、正にこの場がある意味円卓会議なんですよ。こうやって課題の共有をしていくと、やっぱりここが 1 番苦してるよねってところに落とし込んでいないじゃないですか。ただ、この場には足りないものは何かって言うと、例えばですけど、自主防災の個人情報の問題、これは花巻市では今度条例でちゃんと決めごとするというふうになっています。例えばここに今、防災がテーマだった時に、防災の担当であったり自主防の元締めの方々がいれば、話をもっともっと深まるし、共有できるし、ここを変えた方がいいとストレートに伝わります。あと、民生委員さんの活動、なり手がいないという問



題も、国からの報告出せとかそういうことが昔と違ってやっぱり厳しくなっている。そこら辺も、町場と町場でないところの実態の差があるのに一律で適用される、そういう話も出た時に、やっぱりこの場に民生委員さんの監督局もいたらいいだろうし、何なら国の関係者も来て話しをすれば、もっと話が早いかもしれない。こういうように、ちょっと関係する人たちをつないで、地域の困りごとをみんなでもうちょっと深掘りして、変えるところはちゃんと変えよう、そのためにはやっぱり行政がきちっと関わって動かなきゃいけないっていうところにもう既にきちちゃっているんです。地域ですごく工夫して下さっていることを今一杯聞いて、素晴らしいなと思ったんだけど、それだけではなくて、具体的な円卓会議の構想までには至らなかったんですけど非常に大事な話をしていただいたなと思います。

## テーマ2 「地域の困りごとは「(仮称) お助け会議」で解決 !!」

### 広田座長コメント

私から話題提供なんですけど、ずっと東日本大震災の被災地に関わってきていて、今日話が出てきたような、まさに、要援護者等をどう見守るかという話で色々やってきたことがあるんです。やはり関係者が一堂に会する場は絶対に必要だなということで、特に災害公営住宅で知らない者同士が入ってきたという風なコミュニティーづくりに関わってきたんです。福祉関係の方、それからまちづくりの方、役場もいろんな部署が入るしNPOはもちろん社協さんも入るし、民生委員さんも入るんですけど、その個人情報の話があって、その場では一応情報共有はできるわけですけども、先ほどこちらの班であったように、そこにいる人たちが共有しても、実際に助けられるのはその地域のすぐ近くに住んでる人たちなので、その人たちにその情報が出せないでどうするかっていう話です。ある地域ではですね、隣組みたいな班がありますよね。で、班長さんたちが会議をやって、その場限りでその班の中にこの人が実は要援護者だっていうのをその場で口頭で伝えるっていう、だから証拠残さないって言っちゃあれなんですけども、実際にはやっぱり近場の人でしか助けられないので、苦肉の策としてそういうやり方をしているところがありました。ちょっと個人情報の問題は色々解決しなくちゃいけない課題が幾つかあるかなと思います。例えば、話題提供ということで、被災地はちょっと異常事態でもあるんである意味、ここでいうお助け会議みたいなものがやり易いのかもというのがあって、もう非常事態なんでとにかく目の前の課題解決のために関係者みんな集まって何とかしようみたいな、何か災害ユートピアみたいな雰囲気があって、あれを普通の地域でもできるとすごくいいなっていう、そういうことから、今いつどこでどういう災害が起きるかわかりませんから、やっぱりそういう意味では、被災地に学ぶこともあるのかなということで話を聞いて感じました。

## テーマ3 「小さな創意(地域づくり)を実現するために」

### グループA 意見交換

＜岩館仁委員＞高橋さんが最初におっしゃった、広範囲な地域でイベントをやる時には、コミュニティには声掛けをしますか。

＜高橋久美子委員＞開催場所の区長さんなどには声かけを一応するんですが、先日上町でやったものに関しては、地域の人から聞いてないよとか言われたので、なかなか周知は難しいなと感じました。

＜伊藤實委員＞今年はコミュニティ会議で、子どもを守る会というのを100人位に配って、それをぶら下げて学校を助けているんです。子どもたちの問題が結構広くなってきているからね。地域での問題は、色々と派生してくるなと思いますね。

＜高橋久美子委員＞昔のようにママさんサークルみたいなのが少なくなったんですよ。お母さんたちが集まって情報交換したりする、よそからお嫁さんに入ってきた方とかでも気軽に行けるような場所が、そういうコミュニティが無くなったっていうのがありますね。

＜伊藤實委員＞花南では学童クラブをもう一つ作ったんです。そういうものにも地域づくり交付金を生かすことができないのかなと思っていいいます。交付金の使い方も見直した方がいいものもありますよね。

＜岩館仁委員＞コミュニティ会議の事業は、役員会で決めて総会で諮って、もうそこまでで決まってしまうということで、その前の段階の役員会で決める時に、色んな材料、色んな情報をどの位集めてこれるかということなんだろうと思うけど、それこそ高齢の人たちばかりが役員会に来るから、なかなか課題を収集できないですね。だから、そういうところに別の団体から、こういうことをやって欲しいとかいう意見を寄せてもらえる方法があればいいんだろうけどね。

＜伊藤實委員＞27 コミュニティ会議の代表者が集まって話をしても、やっていることが地域によって全然違うんですよ。花南地区では、住民の声を聞くのは行政区長ではなく自治会なんです。

＜役重副座長＞それは地域によって違うんですよ。

＜岩館仁委員＞区長さんは色んな個人情報を持っているから、それでもって話をし易いんですよ。

＜高橋久美子委員＞私は産後ケアに関わっているんです。産後ケア施設としてまんまるさんが花巻にあるんですけど、私も1団体立ち上げようかと思っていたんですが、実際どの位の利用者でどういう運営の仕方をしているのかを聞いて止めたんです。なかなか利用者が増えないようで、そこに来る人を待っている時代じゃないような気がして。駆け込むところがなくて泣いているお母さんがいっぱいいるので、ママさんサークルみたいなものが地区ごとにあればいいと思うんです。地区に1人担当者を置いて、色んな支援、プロジェクトなど、そういう若いお母さんたち担当みたいなものがあると、地区も情報を吸い上げやすい。

＜伊藤實委員＞今、子育て中のお母さんがどこに相談したらいいか分からないということで、子ども広場を0歳児から対象にしてやっています。毎月やっているんですけど、お母

さんたちが集まりますとね、そういう話が出てきます。子ども広場の先生たちにも、こういうところに生きた金を使えと言われます。

<高橋久美子委員>まんまるさんという団体は助産師の団体なのでプロフェッショナルなんです。その団体が対応しきれないところをそういう地区の方々がフォローして、プロが定期的にそういう場所を巡回するとかいうように、プロの方と地域の方の連携があればいいんじゃないかなと思います。

<伊藤實委員>まちづくりは、そういう若いお母さんたちとか、色んな世代から意見を収集して、それを生かしていくことを考えないとだめですね。

<役重副座長>今、マッチングするにはどうしたらいいかという土台ですね。子どもの一定の年齢までは保健師が対応して、そこから先がやっぱり切れる状態があって、そこをどうしていくか。

<高橋久美子委員>実は、助産師っていうのは産後 3 カ月位でいったん切れるんです。そこから就学援助まで保健師の仕事なので、そこに参入したかったんです。だけど結局自費で使えない、国の予算が入らないと運営的に回らないという部分とかがすごく見えて、それをやるのは簡単じゃないなど。

<伊藤實委員>2 億円の地域づくり交付金、これを減らされないかなと思って心配しているんです。だから、色んなアイデアでもって新しい企画を市のほうにどんどん言っているんですけど、これからもどんどん市の方へ言うておかないと、減らされるんじゃないかと。

<役重副座長>それは上手く回っていないという認識が市の方にあるとか。

<伊藤實委員>うちは、あんまりハードばかりに使ったらだめだということで限度を設けて切り替えていまして、5、6 年たってやっとそれが生きてきたかなと思っています。

<役重副座長>子育て支援とか、ママさん支援的なことも切り口になるかもしれないですね。

<高橋久美子委員>それと高齢者はほぼ近いような気がして、赤ちゃんと高齢者では対象的なんだけど、共通しているような。

<岩淵満智子委員>私は、地域づくりっていうのは人づくりだと思っているんです。だから、道路とかもういいんだから、ソフトの面でこちらに使って欲しいと言っても、なかなかそうはいかないんですよ。そうなれば待ってられないから、自分でやれることを、今だったらこれ位はやれると思うことを、思った人が動かないとだめだよって思うんです。例えば、私は平成 18 年からの通学路パトロールを民生委員の関係でやっていたんですが、民生委員を辞めた今でもまだやらなきゃいけないのって地域の方から言われます。そういう風な見方をする事自体が、まだまだこの地域もだめだなと思っているんです。あと、朝立っていると色々な相談が入って、学校と連携をとったり、お母さんの悩みも聞いてあげたりしています。やっぱり、そういう悩みを出せるような場があればいいんだよね。

<岩館仁委員>うちの地区でも子どもさんの数がどんどん減ってて、一つの行政区で一つの家族で 1 人の子どもしかいないところがあるんですよ。だから、子ども会に何かやって

欲しいのあるって尋ねても、いや、うちの家族だけのことになっちゃうから何もないって言うんです。だったら、他の行政区の子どもさんと一緒になって活動をやったらっていうことでやったりして。声を掛けてニーズを吸い上げようとしているんだけど、家族のためにやってもらうのは忍びないみたいな感じで遠慮しちゃって。

<役重副座長>本当に困っている人は声を出せない、それをどうやってというところですね。

<伊藤實委員>以前民生委員をやっていた方の話ですが、朝渋滞するような信号のない場所にいつも立って来ています。その方のおかげで絶対事故が起きないと地域の方々からも感謝されていて、やっぱり、まちづくりの中では、何か小さいことでもいいからやるのが絶対大切ですよ。

<岩淵満智子委員>そう、小さくていいですよ。できることをまず動けばね、地域が変わってきてるなとなりますから。

<高橋久美子委員>そう考えると、お一人しかいなくても、相談事業ってやっぱり一対一が一番いいですよ。

<岩館仁委員>ただ、夏休みに地域の行事で子ども会の行事と言ったって、家族の行事になっちゃう、そんな感じなんですよ。ニーズを取り上げたいんだけど、なかなか出てこない。

<岩淵満智子委員>地域って、何でもお金って考えますよね。活動すればどの位の手当をもらっているんですかとか、まだそういうシステムでしか考えられないっていうのが私はすごく情けないと思います。元気だったらやればいいじゃないと思うんだけど、全部ボランティアですというと、よくやってるねで終わっちゃうんだよね。その、地域の意識を変えんというのが大変なんですよ。

<菊池利和委員>交付金事業でハード面はできるだけ少なく抑えて、ソフトの方で何か事業をやろうと思っても、コミュニティ会議役員だけではなかなか困難な場合があります。それで最近、各町内の構成団体から毎年事業要望なんかを出してもらっているんですけども、見落としが何かあるのではないかとということで、各地域の団体にコミュニティ会議から支援しますから要望があったら申し出てくださいというような支援事業をやっていて、段々そっちの方にウエイトを置いていったらいいのではないかと考えています。もちろん、コミュニティ会議で実施する事業もあるわけですが。

<役重副座長>支援事業とは具体的にどういう団体にですか。

<菊池利和委員>内川目地区では昔から進学指導をやっていて、大迫保育園と合併したものですから、進学指導の指導者について補助して欲しいということでした。

<役重副座長>そういうニーズっていうのは、逆に言うと、区長さんとか自治公民館からはなかなか出てこない、発見されないニーズがあるということですかね。

<岩淵満智子委員>地区で要望を書いて出してくれというのが回ってきますが、そういう場合に上がってくるのは、ほとんどもう道路の問題とか、街灯の問題とか、ゴミ集積所の

問題とかばっかりじゃないですか。だから、やっぱり、あと要望はないのかということを知る場が必要じゃないかと思いつく思いう時があります。

＜役重副座長＞コミュニティの要望ってそういうものだっていう思い込みが、この 10 年で何となく。

＜高橋久美子委員＞何を書いていいのかわからないですね。

＜岩淵満智子委員＞そうなの。

＜伊藤實委員＞毎朝、ごみを集積するのに、軽 4 輪を持っている方に回ってもらうようお願いしてきたんですが、その方が農地と軽 4 輪を手放してしまって、軽トラが 1 台もないということになり、今、大変なんです。

＜役重副座長＞今、学校の草刈りで草刈り機がないという事例が増えてきていて、とても大変。

＜岩館仁委員＞要望を聞く、そういう集りがあればいいのね。

＜岩淵満智子委員＞書いて出せではなくて、やっぱり顔を合わせて話しているという中で、何か出てくるのだと思います。

＜役重副座長＞それも、役付の会長さんだけでなく、あの人あの時あんなこと言ってたっけなあと、個別でもいいから知っておくといいですね。

＜岩淵満智子委員＞そこを崩していくの、切り開いていくのが難しいですよ。偉い人ばかり、がちっとなつて。

＜岩館仁委員＞投げかけても、その担当の役員が今度は自分で歩いて聞いて持ってくるという感じだから。

＜岩淵満智子委員＞それだけではね、個々のことばかりでしょ。こういう風にお茶を飲みながらでもいいから、これはそうじゃない、これはどうだろうねみたいな、雑談の中から何か出てきそうなの。

＜高橋久美子委員＞そういう風に、結局何が欲しいかが分かっちゃえば、どこからかマッチングで来てもらうとか、ちょっと教えてもらって実際自分たちがやるとか、そういうのはすごく簡単なことだと思うので、テーマさえ決まっちゃえば、誰がやるかは、誰とやるかにかえていけば。

### テーマ 3 「小さな創意（地域づくり）を実現するために」

#### グループ B 意見交換

＜菊池和彦委員＞コミュニティ会議では、女性や若い人たちが役員になって意見を聞くということが余りないです。だから、役員や専門部会員になって欲しいっていう前に、まずはコミュニティ会議の事業に参加して様子を見て欲しいと思っています。それで、色んな行事の中には必ず女性が入ることとか、例えばニュースポーツでは若い人のうち 1 人は必ず女性、あるいは小学生とか、条件をつけながらできるだけ女性や若者に参加してもらるように取り組んでいるところです。そして、地域の人たち、高齢の方たちが頑張っている

る姿を見れば、いつか自分たちもやらなくちゃという意識が芽生えてくるのではないかと期待しています。それで、もっと振興センターを活用して欲しいということで、例えば長期休業中に子供が来て家庭学習をすとか、あるいは遊びやスポーツなんかするっていうと親も当然来ますので、そういう中で、色んな若い人たちの考え方を聞ければいいというのが一つの手段です。今年、ピザ窯を作ったんです。そしてそれをきっかけにして、子どもたちと料理を作るとか、そういう活動をしながらまずは来て欲しいなということを考えているところです。

＜板垣あや子委員＞そういうところに、例えば私たちやNPOなどがやっている事業がマッチングすると、色々お手伝いできます。子どもと一緒に料理を作って食べるという事業は参加者が多いです。さっきも言いましたが、W i - F i と食べ物には皆さん親子で来ますので、そういう魅力があるといいと思います。

＜菊池和彦委員＞市内どこでも出張してくれるのか。

＜板垣あや子委員＞はい。フリーマーケットとか、お下がり会とか、お母さんたちが喉から手が出るようなものを企画すると、取りあえず一緒に同席して、コミュニケーションをとるきっかけづくりにはなると思います。

＜佐々木政之委員＞若い人や女性に来てもらいたい時は、子どもさんをだしにする。親やおじいちゃんたちも出てきたりするので、行事を上手く使えば、まだ、人は集まると思っています。実際に世代間交流に力を入れていますが、子どもも来るし、親も、年配の方も来るというのが狙いです。

＜菊池和彦委員＞私のコミュニティ祭りの午前中はミニ運動会を、お昼には長いのり巻き作りに挑戦するんです。東和中学校の吹奏楽部の子どもたちが、去年一緒にのり巻き作りをやったらとても楽しかったので、今年もやらせて欲しいと言って35人来ました。もちろん演奏もするんですが、のり巻き作りも一緒にやるんですね。何かそういう感じで、集まれる機会を設けているのは一つの作戦ですよ。

＜佐々木政之委員＞外川目の長いのり巻きは、ロール海苔を使うんですよ。切れていないから一斉にできる。

＜菊池和彦委員＞それはいいことを聞きました。今日来た甲斐がありました。うちは、切れている海苔だから大変なんです。板垣さん、いつかお願いするかもしれません。よろしくお願いします。また、ご飯を炊いたり、具をのせたりという時は、地区地区で女性軍が前面に出てリードするんです。

＜伊藤昇委員＞うちの場合は、意外と親は来ない。子どもだけで、地域まかせ。小学生が70名位で親が来るのは3分の1いるかというところ。子どもが来れば親も来るというのは、私たちの地域では違う。地域性があるのかな。

＜板垣あや子委員＞私たちの事業は、親子料理教室にすることで親も来させていますが、若いお母さん方はなかなか来ない。若いお母さんたちの参加は課題ですよ。

＜高橋一彦委員＞毎年、文化祭といえば写真や絵画、書道、展示という形で、見ればすぐ帰る形です。子連れで来ても子どもがせわしいからゆっくり見られないという意見があったんです。だから、去年から2つある体育館を両方使って、フリースペースを作ったんです。小学校から畳ごさを借りて体育館の半面に敷いて、子育て支援センターから遊具を借りて置いてみたところ、子どもたちは飽きてもフリースペースで遊べるので、若いお母さんたちにも結構ゆっくり作品を見てもらえるようになり、あれはヒットだったのかなと思います。それからもう一つ、宮野目は空港関連で、宮野目グランドというのを県の空港事務所から市が借りて、それを宮野目地区が指定管理で運営しているんです。最近はお少も衰退化して、野球場もそう使うわけじゃない。それで、ジャングルみたいになっているところを整備しようっていう声が出て自分たちで手をかけたんです。そして、朝採りの新鮮野菜を持ち寄って、整備した後のグランドの駐車場でトラック市をやろうという話になったんですが、結局計画倒れに終わったんです。次に、文化祭の時に秋野菜を軽トラックに積んで文化祭にドッキングさせたところ、展示物を見るより入場者が殺到して、人集めに功を奏したという思いがありまして、やっぱりひと工夫することによって若いお母さんたちやそれ以外の方も来るのかなって感じました。それから、今まで女性の参加を増やすために実施していた女性学級を宮野目寺子屋塾という風に名前とメニューを変えて実施したところ、男性も含めて参加者数が増えたんです。お正月用のミニ盆栽が非常に好評でした。

＜板垣あや子委員＞今までやった事業で結構好評だったのがアンガーマネジメントで、子育てでも介護でも色々な世代に使える怒りのコントロールについて学ぶもの。エンディングノートで終活を考えたり、子どもたちの自分を知るメンタルトレーニングなども教えてくれたりできる講師を呼んで開催しました。また、今度やるフリーマーケットやバザーは、社協さんと協力してやる事業。社協さんがやる福祉バザーは1日だけで、そこで残ったものをお金をかけて捨てているので、それを活用して私たちが事業をやるんです。軽トラ市と併せてやると若い人をもっと集められるかも。

＜高橋一彦委員＞実は、計画段階では野菜の他にフリーマーケットもあったんです。

＜板垣あや子委員＞フリーマーケットの開催告知ができるサイトがあって、そこに載せると人が大勢集まるんです。そのサイトには、開催しますだけでなく、出店者募集します、出店料はいくらですと載せると、沢山集められますよ。

＜佐々木政之委員＞うちは大根狩りをやっています。今年テレビで取り上げてくれたので、人がいつもよりものすごく沢山来ました。

＜板垣あや子委員＞色んな事業をやる時に、1日でもいいから取材依頼をかけておくといいですね。

## 8 全体まとめ①（役重副座長）

皆さんお疲れ様でした。今日は3つに区切ってお話していただいたわけですが、話はずっと繋がっていたんじゃないかなという風に思います。また去年のまとめを踏まえて今回話し合っていたいただいているので、お話も格段に深まっているなあってすごく感じました。今現在市の方で、地域カルテということで、地域に入ってその実情を詳らかに聞いていくっていう作業をしていますので、これと皆さんの作業を重ね合わせていくと、何となくですが一定の方向とか、取り組めることが出てきそうな気がしています。それにつけても、やっぱり地区地区で考えていけることがどうしても限界にきていますので、議論も大事なんですけど、もう一歩先に進んで、例えば、今のママさんの話でもいいし、民生委員さんの話でもいいんですが、何か困りごとを抜き出して、こういったメンバープラス事業者さんとかNPOとか現場で取り組んでいる団体さんとかも加えて、市の人も県の人も良ければ呼んできて、もう少し深めた形の円卓会議っていうものを試行的にでもいいのでやっていくとか、それが例えばまなび学園とかじゃなくてどこか地域に出かけて行ってやるとか。そういった取組の一つ繋げて、何か話してばかりだと皆さんが疲れてきたんじゃないかなって気がしますので、そういったことも当局とも話ながら進めていければと思います。

## 8 全体まとめ②（広田座長）

皆さんお疲れ様でした。今、役重さんに上手にまとめてもらったんで、それに足すような形でちょっとだけコメントします。こちらのB班の方で、小さくてもいいからできることからやってみることが重要だって、もうまさに地域づくりってそういうものだと思います。そうやって、やってみることで人もつくられていくということで、そういう意味では実践は大変重要な分野だと思っています。今日、グループで三つのテーマで昨年より少し進んだ話し合いをしていただいたんですけれども、これから具体的にどうするかっていう時に、両方の班からも出ていたんですけれど、一つ具体的にこういう仕組みとか、こういう事業っていうのを実際に考えてみて、それを実際に動かすっていうようなことが必要なと思います。特に三つ目の小さな創意を実現する仕組だと幾つかアイデアも出てきましたけども、具体的な仕組としてこういう仕組をつくれれば、より若い人とか女性が手を挙げやすいみたいなのかですね。あとお金の使い方については、いろいろ工夫は有り得るかと思いますが、交付金ね。コミュニティ会議で議論したとこちらの班から出ていましたけど、若い人とか女性のニーズとかをあまり拾い切れないうまま来年度予算計画を作っちゃって、でも当該年度中にまた違ったことをやりにくい、そこは上手な仕組を作れるんじゃないかなという気がします。ということで、来月また1回懇談会を開くんですけれども、ちょっと事務局の負担になると思うんですけれども、具体的にこういう仕組とかこういう事業とかをやってみてはどうかっていうような提案的なことを皆さんに投げかけて、これは上手いきそうだとか、やっぱりこれはちょっと無理があるんじゃないかとか、何かそういう意見交換をしてもらえると、より具体的に、話し合いだけでなく実践的になるのかなという風



に感じています。我々ももちろんアイデアは出したいと思いますが、皆さんの意見交換の中でヒントが沢山あったと思いますので、そういう場にしていければと思います。あと、こういう場が地域にもあったらいいなという気がしました。地区ごとにこういう懇談会があって、円卓会議的な色々な立場の人が集まって割と自由に意見交換する場があるといいのかなっていうのも感じました。それも、それぞれの地区で一斉にヨーイドンでやるんじゃなくて、そういうのをやってみたらいいんじゃないかという地域からやればいいわけですから、やってみるといような姿勢で、できるところから進めていくというのがいいと思います。次回には、地域カルテのまとめは間に合うんですか、厳しいですか。1月には厳しそうですが、せっかくかなりの労力をかけてやっていますし、あと行政の方から地域に頼んでいることってというのは途中経過をちょっと見せてもらいましたけど、やっぱりあれはこの場に帰すべきですね。見える化という言葉が出ていましたけど、あれはすごく重要だと思うんですね。漠然と感じていたのが具体的なデータとして証拠として見せられると、なるほどこれは何とかしなきゃいけないと思うわけですから、これもちょっと事務局の負担になると思うんですけど、途中段階でもいいと思うんで、是非皆さんに見てもらいたいかなと思います。ということで、全体まとめというか、次回に向けてこんな風にしてったらいいんじゃないかなみたいな話になっちゃいましたけれども、ともあれ3時間熱心に意見交換していただいて、大変有益だったなと思います。次回は1月の28日ですね。ということで、是非皆さん、予定を空けて、それから今日来られていない方も次回は是非参加して欲しいと思います。次回はすぐきますので、またお集まりいただければと思います。大変お疲れ様でした。

## 9 閉会 (17:00)